



巻頭言

「吉野諒三氏のご逝去を悼む（吉野諒三氏の業績と思い出）」

東洋英和女学院大学 林文

『データ分析の理論と応用』の編集委員長を 2023 年まで務めて下さっていた吉野諒三氏が猛暑の昨夏ご逝去されました。享年 69 歳でした。体調はあまり良くないと伺ってはいましたが、精力的に原稿執筆され、研究関係の方々との連絡を交わされるご生活の中での突然のこととわかり、言葉を失いました。吉野氏が何を目指していたのか、研究仲間としての思い出とともに、簡単にご業績を振り返って見たいと思います。

吉野氏は日本分類学会のみならず、広く活躍してこられました。研究の中心として、私たちに示そうとしておられたのは、意識の国際比較調査などの社会調査と、そのデータに基づいて人間社会のありようを捉えることだったのではないのでしょうか。ですが、統計数理研究所に入られるまでは、必ずしも社会調査に関心があったわけではなく、アメリカで取り組んでおられたのは、数理心理学でした。遺品の中には最後までその関連のメモ書きがありました。そうした背景を持ちながら、林知己夫先生のデータについてのお考えに感銘を受け、実質、統計数理研究所では林先生の後を継ぐ役割を、喜んで引き継いだのではないかと、拝察しています。

吉野氏が統計数理研究所に着任されたのは、林知己夫先生による多文化の比較調査分析の理論、CLA (Cultural Linkage Analysis) に基づく七カ国国民性比較調査が進んでいる時でした。データの共有、調査データのアーカイブの検討のため、各国の研究者と盛んにやりとりがありました。その1つ、ドイツでの研究会(私も出席)があり、吉野氏はそれに続いての1年間ドイツ(セントラルアーカイブ、ZUMA)に派遣されています。そこでの研究交流は、残念ながら、順調とは言えないもので少し苦勞されたようでした。

その後のご活躍は、皆様よくご存じの通り、社会調査、世論調査についての多くの研究があります。林先生のCLA (Cultural Link Analysis) に基づくハワイ、ブラジル、アメリカ本土の日系人調査を共にされ、国

<目次>

・巻頭言「吉野諒三氏のご逝去を悼む（吉野諒三氏の業績と思い出）」	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告 大会開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
・学会賞・フェローについて 日本分類学会 学会賞およびフェローについて	4
日本分類学会 2024 年度 学会賞・フェロー	4
日本分類学会 2024 年度 学会賞受賞者より	5
・学会議事録等 2024 年度総会議事録	7
評議員会議事録	8
・事務局から	15

際比較調査の現場経験を通して考えを深められ、異文化比較について CULMAN (Cultural Manifold Analysis : 文化多様体解析) の解析という視点を提唱されました。その考えの下、吉野氏が計画実施された調査には、アメリカを含む環太平洋の地域、また、東アジア地域で意識国際比較調査があります。1990 年前後の欧米 7 カ国調査にならい、調査対象の抽出の問題について、非常に丁寧に現地研究者や実施委託先との検討を重ねられました。日本においても、住民の意識意見を問う調査の正統な無作為標本抽出の困難さ、回収率の減少、などの問題が大きくなっており、各国における擬似的な無作為抽出の方法の実態記録を重視、詳しく報告されています。

データそのものの重要性を重んじること、これも林知己夫先生の「データの科学」の考え方であり、論文の中や折に触れての著述でそれを啓発してこられました。「データ分析の理論と応用」には社会調査に関するものも多くあります。編集委員長を務められた 2019 年からの 4 年間には特に、データ分析の基となるデータそのものの収集に関して、関心を持つことの重要性が示されています。人間社会における人々の意識の問

題についてはデータ収集の範囲を含む方法の把握がなければ、分析結果の解釈が危ういものになります。1つの結論を得られない、一般的な学会では認められにくい論文形態、試行錯誤しながら進む過程そのものも重要との主張もあったかと思えます。

吉野氏は、林知己夫先生の後を継ぐという役割が自分に課せられた使命とお聞きしたことがあります。それだけではなく、ほんとうに、共鳴しておられたからこそその向き合い方であったと思います。統計数理研究所では、国民性調査など調査関係の部所が小さくなり、大学共同利用期間法人情報・システム研究機構の1つであるデータサイエンス共同利用基盤施設 (DS) に移られましたが、調査研究への風当たりが強くなっていった中で、同志社大学に移られました。オンラインでの大学院授業には、私も傍聴させていただきました。それも定年を待たずに辞められたのは、体調の問題もあるように伺っていましたが、それからお元気に、いくつもの役割を担ってお元気に活動しておられました。私たちには、統計数理研究所での国際比較調査の資料、それらのデータの整理と公開に向けての体制作りなどを指示され、また、国民性調査研究の価値の海外への紹介にも力を注がれていました。

吉野氏のももとの関心であった数理心理学への関心も常に持ち続けておられたことを、遺品整理に伺ったときに知りました。数理心理学のノートがあり、毎日のように書き込んでありました。同志社大学を早めに辞された理由の1つ、というより一番の理由は、カリフォルニアに行き、その頃の研究仲間と会いもう一度じっくり考えたいという事だったそうです (行動計量学会会報第183号「吉野諒三先生追悼特集」)。それも夢のまま、ご自分でも思いもよらない突然の断絶。どんなに悔しい思いでいらしたかと、心が痛みます。残念でありませんが、すでに半年、あちらの世界で自由に大好きな研究をしておられると思うことにします。現実の世界では、データサイエンスという言葉が定着していますが、深い意味での「データの科学」の重要性は、むしろ強調されるべきと思っています。吉野氏もそうであったように、いろいろ制約のある中、力強く本質に向う研究ができるようにと思うばかりです。

(統計数理研究所名誉教授、同志社大学社会科学センター嘱託研究員)

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○大会開催報告

■日本分類学会第43回大会開催報告

大会実行委員長 山本義郎 (東海大学)

日本分類学会第43回大会を2024年6月15日(土)、16日(日)に秋田市民交流プラザALVE (アルヴェ) (秋田県秋田市)で開催いたしました。10件の一般講演に加え、6件の学生発表も行われ、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。みなさまのおかげで、大変、有益な大会になったと感じています。大会実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション I

座長：船山貴光 (東北大学)

・株価相関ネットワークにおけるフラストレーション構造

名田悠花, 西田明夏音, 新井優太 (麗澤大学), 家富洋 (立正大学)

・セルフメディケーションの年代別傾向とその推移の把握—年代別人口と医薬品売上データの分析
本間萌々夏, 阿部寛康, 伊藤達也 (和歌山県立医科大学)

・サッカーにおける各国の世代間の特徴
与座英之, 山本義郎 (東海大学)

学生発表セッション II

座長：山田実俊 (東海大学)

・経時測定されたマルチビューデータに対する自己回帰テンソル分解の提案

久保幸平, 岡部格明, 宿久洋 (同志社大学)

・財務指標とテキスト特徴量を用いた不正会計検知モデル

佐藤夏輝, 小村亜唯子, 平井裕久 (神奈川大学)

・有価証券報告書のテキスト情報量・トーン・センチメントと将来業績の関係

川邊貴彬, 小村亜唯子, 平井裕久 (神奈川大学)

一般セッション I

座長：飯塚誠也 (岡山大学)

・調査票レイアウトが複数選択方式の結果に与える影響

橋本実咲希, 土屋隆裕 (横浜市立大学)

・2024 GUINNESS MEN'S SIX NATIONS RUGBY における アイルランドの自陣 22m 区域の防御パフォ

ーマンスの特徴についての考察

宮本誉久, 山田実俊, 山本義郎 (東海大学)

・新しく策定された日本の生産物分類について
菅幹雄 (法政大学), 宮川幸三 (立正大学)

一般セッションII

座長: 山本義郎 (東海大学)

・外的基準を用いた回帰による因子得点とパラメータ
行列の同時推定

山下直人 (関西大学)

・因子分析と主成分分析のハイブリッドモデルが導く
両分析法の関係

足立浩平 (京都女子大学)

・非対称非階層クラスター分析と階層クラスター分
析: 仕事上の協力・助言関係の例

岡太彬訓 (立教大学), 横山暁 (青山学院大学)

・ファジィクラスタリングの信頼度について

佐藤美佳 (筑波大学)

一般セッションIII

座長: 山本倫生 (大阪大学)

・多クラス分類のベイズ更新をある確率分布の空間に
写像して尤度比に応じた平行移動として考える

下野寿之 (山梨大学)

・類似度の公平性に基づく予測モデルの比較検討

瀬戸ひろえ (大阪大学) 前川眞一 (東京工業大学/大
学入試センター), 山本倫生 (大阪大学/理化学研究
所)

・ノード内リサンプリングを用いた決定木の構築

前川眞一 (東京工業大学/大学入試センター), 瀬戸
ひろえ (大阪大学), 山下直人 (関西大学)

○シンポジウム開催報告

■2024年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 林篤裕 (名古屋工業大学)

2024年度日本分類学会シンポジウムを2024年11月30日(土), 12月1日(日)に名古屋工業大学(愛知県名古屋市)でハイブリッド開催(現地とオンライン)いたしました。一般講演7件に加えて, 学生発表8件を5セッションに分けて進行し, 活発に意見交換が行われたシンポジウムになったと感じております。また, 初日夕刻には大学隣接の浩養園(サッポロビール名古屋ビール園)にて懇親会を開催し, 参加者間のネットワーク構築にも寄与できたものと確信しております。

本シンポジウムの開催にあたり, ご参加いただきました皆様, ならびにご協力いただきました全ての方々に心より感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッションI

座長: 今泉忠 (多摩大学)

・順序ラベル情報を考慮した Graph-Linked Unified Embedding の提案

小林拓, 岡部格明, 宿久洋 (同志社大学)

・サロゲートモデルを用いた U-NSGA-III の精度改良手法の提案

村上雅海, 中西(大野)義典, 宿久洋 (同志社大学)

・量質混在データに対するグループ間の情報借用を伴う Multiple Group SEM について

竹島大輝 (同志社大学), 土田潤 (京都女子大学), 宿久洋 (同志社大学)

・Aitchison 幾何による交差分類表の準対称性解析

中村慶太 (東京理科大学), 中川智之 (明星大学/理化学研究所), 田畑耕治 (東京理科大学)

学生発表セッションII

座長: 酒折文武 (中央大学)

・無人販売機における利用状況の分析と適切な商品ラインナップの検討

大河内菜月, 山本義郎 (東海大学)

・重要度重み付き学習を用いた AIT 推定

荒尾沙央莉, 原田和治, 田栗正隆 (東京医科大学)

・エントロピー正則化に基づく Robust Sparse Fuzzy Clusterwise Regression の提案

佐藤丈寛, 谷岡健資, 廣安知之 (同志社大学)

・共通ネットワークを推定するための Robust Unified Graphical Lasso

守屋亮平, 谷岡健資, 日和悟, 廣安知之 (同志社大学)

一般セッションI

座長: 富田誠 (横浜市立大学)

・経路 lasso による共変量選択と平均処置効果の推定
奥田忠久 (東京医科大学), 吉川剛平 (九州大学/株式会社NTTデータ数理システム) 川野秀一 (九州大学), 田栗正隆 (東京医科大学)

・スパース推定に基づく非線形ダイナミクスのオンライン学習アルゴリズム

宮内優太, 山本倫生 (大阪大学/理研 AIP/滋賀大学)
座長: 前川眞一 (東京工業大学)

一般セッション II

座長：山本義郎（東海大学）

・選抜効果を補正する相関係数の推定法の比較とその応用 —A 大学の入試成績・GPA 間の相関分析—
牧野直道，桜井裕仁（大学入試センター） 林篤裕（名古屋工業大学），山村滋（大学入試センター）

・連立方程式解に基づく因子得点の新たな同定法
山下直人（関西大学），前川眞一（東京工業大学／大学入試センター）

・主クラスター成分分析の導出と心理尺度構成への応用
村上隆（中京大学）

一般セッション III

座長：栗原考次（京都女子大学）

・QUINT の生存時間への拡張
笹山洋子（和歌山県立医科大学），谷岡健資（同志社大学），万可，下川敏雄（和歌山県立医科大学）

・15 歳時に本を持っていることは何を意味するのか：
社会階層論の観点から
眞田英毅（同志社大学）

日本分類学会学会賞およびフェローについて

会長 宿久洋

日本分類学会では、学会賞として「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。また、2016年度より「分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェロー授与制度を設置しています。

2024年度は次の方々が学会賞、フェローの称号を授与されました。

○日本分類学会 2024 年度 学会賞・フェロー

2024年度の学会賞受賞者として、貢献賞は該当者なし、論文賞には林邦好 会員、奨励賞には嶋田直也 会員、鈴木徳太 会員が選ばれ、2024年6月15日に開催された2024年度総会で授賞式が行われました。また、同総会において、足立浩平 会員にフェローの称号が授与されました。

[貢献賞]

該当なし

主な理由

学会賞検討委員会で貢献賞の候補者について、さまざまな点から検討を行った。その結果、2024年度貢献賞については、選考委員会からの推薦者はなしとすることにする。

[論文賞]

林邦好 会員（京都女子大学）

主な選考理由

日本分類学会が関係している学会誌で、近年研究内容が分類やデータ分析に関係した論文について内容や引用などを踏まえて選考した。選考された論文は、

Hayashi, K., Hoshino, E., Suzuki, M. et al. Early identification of biliary atresia using subspace and the bootstrap methods. *Adv Data Anal Classif*, 17, 163–179 (2023). <https://doi.org/10.1007/s11634-022-00493-8>

である。この論文は、主に乳幼児が罹患する希少疾患である胆道閉鎖症 (BA) について検討する。本研究では、画像データ (BA 患者の便画像) から BA を同定することに焦点を当てている。AI と統計学的アプローチを用いて、限られた訓練データに曝された後の BA の正確な診断、効率的な分類、早期発見のための機械学習分類器 (モデル) を提案する。安定したデータが少ない状況である早期発見は重要な課題である。どのようにして解決するか方法論について AI と統計学的アプローチを併用することで、適切な処理方法を提案していることは高く評価される。

この点から林邦好会員に授与することにしたい。

[奨励賞]

嶋田直也 会員 (株式会社ブレインパッド (賞選考対象の発表時：大阪大学))

主な選考理由

嶋田直也氏は、日本分類学会第42回大会 (2023年5月、京都市) において「グループ L0 ノルムを用いた変数選択を伴う行列分解因子分析」、日本分類学会第41回大会 (2022年6月、福岡市) において「群中心行列の零列数を直接制約した変数選択クラスタリング」と題した優れた発表をし、前者の発表では優秀学生発表賞を受賞されている。その他にも日独分類シンポジウムなどでの発表など積極的な研究活動を行っており、奨励賞候補として適切と考えられる。

[奨励賞]

鈴木徳太 会員 (東京医科大学)

主な選考理由

鈴木徳太氏は、日本分類学会 2023 年度シンポジウム (2023年12月、長崎市) において「時間依存性交絡存在下での傾向スコアの層別化に基づく IPW 推定量」と題した優れた発表をし、高い評価を得て優秀発表賞を獲得している。海外の学会発表でも誤分類に関する発表により The Runner-up of the 2023 WNAR

Student Most Outstanding Written Paper Award を受賞しているなど、奨励賞候補として適切と考えられる。

[フェロー]

足立浩平 会員 (京都女子大学 データサイエンス学部 教授)

授与理由

多変量解析、特に主成分分析や因子分析などについて交互最小2乗法をもとにした行列分解を用いた多くの研究を行い、多数の優れた論文を発表している。また、論文のみではなく多くの著書を著して分類学に関しても広く社会にも貢献している。

日本分類学会においては評議員(運営委員)などを歴任し、また、編集委員会委員としても貢献されている。これまでの学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、また今後共に活躍されることが大いに期待されるので、フェローの候補者として推薦することとした。

○学会賞受賞者より

日本分類学会論文賞を受賞して

林邦好 (京都女子大学)

この度は日本分類学会論文賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。本論文賞にご推薦いただきました先生方、選考委員会の先生方、共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。受賞対象となりました論文「Early identification of biliary atresia using subspace and the bootstrap methods」は、前職の聖路加国際大学公衆衛生大学院において星野絵里先生を中心とする先生方とともに開始した胆道閉鎖症の早期発見に関わる研究です。胆道閉鎖症という疾患は、生後間もない乳幼児がかかる稀な病気であり、早期に適切な治療を行う必要がある重篤な疾患です。現在は、早期発見のために母子手帳に掲載されている便色カラーカードの色見本と乳幼児の便の色とを目で見比べる方法が用いられています。私たちの研究グループでは、データサイエンスに基づくアプローチにより、胆道閉鎖症を早期に発見するためのアプリ (Baby うんち) をこれまで開発してきました。従来のBaby うんちでは、撮影した画像内に便以外の画像が撮影されている場合は正しく処理を行うことが困難でした。こうした問題を踏まえ、本研究では限られた学習データにおいて比較的優れた性能を示す部分空間法を利用し、画像内に写っているものが便であるか否かをはじめに判定し、その後、胆道閉鎖症の同定を行うという2段階による

方法を提案しました。また、提案手法をブートストラップに基づき安定化させ、その手法の有用性を示しました。

前職の聖路加国際大学には、本学会にご尽力されました柳井晴夫先生が在籍されていました。柳井晴夫先生とゆかりのある場所で、医療統計・生物統計を学ぶ機会や多くの臨床研究に参画し研鑽を積む機会を賜りましたことは、私にとってかけがえのない貴重な経験です。また前職では、本学会第40回大会を実行委員長として開催させていただく機会を賜り、現会長の宿久洋先生、幹事長の中山厚穂先生、岡太彬訓先生、今泉忠先生、水田正弘先生、栗原考次先生、足立浩平先生、山本義郎先生、富田誠先生、日本分類学会に関わる先生方から多くのご教示を賜りました。京都女子大学に異動した現在も継続的にご指導ご鞭撻をいただいております。この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、「データの科学としての分類とそのデータ分析」に関する分野の発展に貢献できるよう、より一層精進を重ねていく所存です。ぜひ今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



林邦好 (はやしくによし)

日本学術振興会特別研究員 (DC2) を経て、2011年3月北海道大学大学院博士課程修了。岡山大学大学院助教および科学技術振興機構CREST研究員、聖路加国際大学公衆衛生大学院講師、京都女子大学宗教・文化研究所准教授を経て、2023年4月から京都女子大学データサイエンス学部准教授。

日本分類学会奨励賞を受賞して

嶋田直也 (株式会社ブレインパッド)

このたびは、日本分類学会奨励賞に選出いただき、誠にありがとうございます。選考に携わった賞委員会の先生方に厚くお礼申し上げます。また、この名誉な賞を受けることができたのは、指導教員である山本倫生先生ならびに足立浩平先生からの多大なるご助言ご指導をいただけたおかげです。心から感謝申し上げます。

今回の受賞対象となった、「グループL0ノルムを用

いた変数選択を伴う行列分解因子分析」は、2023年5月に京都女子大学で開催された2023年度日本分類学会大会において発表させていただきました。本発表では、観測変数が多い場合の因子分析における変数選択手法として、既存の罰則付き最尤法(PMLw)の課題を克服する新たな手法を提案しました。PMLwはグループL1ノルム制約を用いることで変数選択を実現しますが、因子負荷量の過小推定やデータが正規分布に従わない場合のバイアス発生といった問題を抱えています。一方、提案手法は行列分解因子分析に基づいており、得点行列に正規分布を仮定せずに推定を行えるため、非正規分布のデータにも対応可能です。また、グループL0ノルムを用いることで変数の数のみを制約し、因子負荷量に直接的な制約を与えないため、バイアスなく推定が可能です。

本研究の発表に至るまで、指導教員である山本倫生先生ならびに足立浩平先生には、とても熱心なご指導をいただき、感謝してもきれません。山本先生には本研究について直接ご指導をいただき、個別に発表練習の機会を設けていただくなど、多くの時間を割いて丁寧にサポートしてくださいました。足立先生には、私が学部生の際に直接指導していただき、右も左も分からない私に研究の基礎を教えてくださいました。また、本大会以外にも国内外のさまざまな学会で発表する機会を作っていただき、他大学の教員の方々や専門家の方々からの鋭いご指摘を通じて、本研究をさらにブラッシュアップすることができました。本研究は一人の力ではなく、多くの方々のご協力のおかげで完成することができたものです。

私は昨年4月から株式会社ブレインパッドに就職し、データサイエンスの社会実装に取り組んでおります。アカデミックの世界からは離れてしまいましたが、研究活動や本大会で得た知見、そしてこのたびいただいた奨励賞を励みに、今後も精進してまいります。



嶋田直也 (しまだ なおや)

2024年3月大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程課程修了。
同年4月株式会社ブレインパッド入社。

日本分類学会奨励賞を受賞して

鈴木徳太 (東京医科大学大学院)

この度は日本分類学会奨励賞に選出していただき、誠にありがとうございます。選考に携わられた委員の先生方をはじめ、学会員の皆様に深く御礼申し上げます。また、共同研究者でもある指導教員の田栗正隆先生にも感謝申し上げます。

今回の受賞対象となりました「時間依存性交絡存在下での傾向スコアの層別化に基づくIPW推定量」は、2023年12月に長崎市で開催されたシンポジウムにて発表しました。本研究の背景を簡単に説明しますと、アウトカム(目的変数)に与える因果効果に関心の介入(治療、曝露)が複数時点に渡って行われ、かつある時点の介入がそれ以前の介入や共変量によって決定される場合、一般に時間依存性交絡という問題が生じます。この時間依存性交絡が生じる場合には、単一時点で行われる介入の因果効果の推定に適切であった回帰や層別化といった手法が不適となり、g-methodsと総称される3つの手法が主に用いられます。本研究は、その中でも実装が容易であることから最も広く用いられているものの、推定精度に難がある「周辺構造モデルにおけるIPW推定」に着目し、推定精度を改善することを目的としました。

統計的因果推論という分野・ワードは、近年多くの書籍が出版されていることに代表されるように、世間一般での認知を得てきているように感じられます。しかし、この時間依存性交絡がある状況での因果効果の推定は、その興味・関心の高さに比べると統計学的方法論の整備が十分ではなく、実用上は制限が多いのが現状かと思えます。本研究はシンポジウムで発表した内容で完結するものではなく、様々な観点から問題をいかに解決するかを議論し、方法論の発展に努力してまいりたいと考えております。

私は本年4月から一般企業に就職しますが、引き続き研究活動も続けていく予定です。この奨励賞をいただいた経験を励みに精進してまいります。引き続きご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。



鈴木徳太 (すずき のりひろ)

2023年 横浜市立大学データサイエンス学部 卒業
同年4月 東京医科大学大学院医学研究科修士課程 入学、現在同大学院修士課程 在学中。

学会議事録等

○2024 年度総会議事録

日本分類学会 2024 年度総会 議事録

開催日時：2024 年 6 月 15 日（土），16:00-17:00
会 場：秋田市民交流プラザ ALVE（アルヴェ）
4 階 洋室 C ならびに Zoom を用いたオンラインによる並行開催

■議長の選出

議長として、飯塚氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第 43 回大会について

山本義郎大会実行委員長より、2024 年 6 月 15 日および 16 日に秋田市民交流プラザ ALVE およびオンラインで並行開催される日本分類学会第 43 回大会の開催状況について、報告がなされた。

2. 2024 年度シンポジウムについて

宿久会長より、2024 年度シンポジウムについて、林篤裕大会実行委員長のもと、2024 年 11 月 30 日および 12 月 1 日に名古屋工業大学にて開催される旨、報告がなされた。

3. 2024 年度データ分析セミナーについて

宿久会長より、2024 年度は日本分類学会単独開催としてのデータ分析セミナーを開催予定である旨、報告がなされた。また、2025 年度以降のデータ分析セミナーについては体制や開催時期をある程度固定化していくことについて検討中である旨、報告がなされた。

4. 2024 年度統計関連学会連合大会について

宿久会長より、2024 年度統計関連学会連合大会について、2024 年 9 月 1 日から 5 日にかけて、東京理科大学神楽坂キャンパスにて開催される旨、報告がなされた。

5. IFCS2024 について

宿久会長より、IFCS2024 について、2024 年 7 月 15 日から 19 日にかけて Rodrigo Facio Campus of the University of Costa Rica, San Jose, Costa Rica にて開催される旨、報告がなされた。

6. ECDA2024 について

宿久会長より、ECDA2024 について、2024 年 9 月 9 日から 11 日にかけて、Faculty of Management,

University of Gdansk, Sopot, Poland にて開催される旨、報告がなされた。

7. COMPSTAT2024 について

宿久会長より、COMPSTAT2024 について、2024 年 8 月 27 日から 30 日にかけて、University of Giessen, Giessen, Germany にて開催される旨、報告がなされた。

8. 和文誌について

大津編集委員会委員長より、和文誌第 13 巻第 1 号にて設ける特集「調査データ収集法の新展開」における、編集状況について報告がなされた。和文誌第 14 巻については特集を設定しない旨、説明がなされた。

J-STAGE DATA の利用申請を行い、本和文誌「データ分析の理論と応用」での利用が認められた旨、報告がなされた。また、J-STAGE DATA に関わる投稿規定について検討中である旨、報告がなされた。

9. 広報活動について

土田広報幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

10. 学会賞について

宿久会長より、学会賞選考委員会により 2024 年度学会賞の受賞者が選出されたこと、およびその受賞者について報告がなされた。

11. 2024 年度の大会（第 44 回大会）について

宿久会長より、2025 年度の大会は、中山大会実行委員長の下、北海道函館市で開催予定である旨、報告がなされた。

12. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 2023 年度事業報告・会計報告について

阿部庶務幹事より、2023 年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2023 年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

2. 2023 年度監査報告について

今泉監事、水田監事より、5 月 29 日に監査を行い、

決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。

監査報告を受け、事業報告・会計報告について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

3. 2024年度事業計画および予算案について
阿部庶務幹事より、2024年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2024年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. 統計関連学会連合の法人化について
宿久会長より、統計関連学会連合の法人化について、法人化を検討するに至った経緯、法人化によるメリットとデメリットなどについて、報告がなされた。
統計関連学会連合の法人化について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

5. フェロー候補者について
宿久会長より、学会賞選考委員会により、足立浩平氏がフェロー候補者として推薦された旨、説明がなされた。
以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

6. その他
その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。

[貢献賞] 該当なし
[論文賞] 林邦好 会員 (聖路加国際大学専門職大学院公衆衛生学研究科 講師 (賞選考対象論文での所属) (現京都女子大学 准教授))
[奨励賞] 嶋田直也 会員 (大阪大学大学院人間科学研究科 修士2年 (賞選考対象の発表時))
鈴木徳太 会員 (東京医科大学大学院 修士1年)
[フェロー称号] 足立浩平 会員 (京都女子大学 データサイエンス学部 教授)

○評議員会議事録

日本分類学会 2023-24年度 第5回評議員会 議事録

開催日時：2024年3月30日(土)、16:30-17:10
会場：zoomによるオンラインでの開催

出席者(敬称略、会長、監事以外は五十音順)：
宿久洋(会長、同志社大学)、
石岡文生(岡山大学)、大津起夫(大学入試センター)、
岡太彬訓(立教大学)、小田牧子(防衛医科大学校)、
栗原考次(京都女子大学)、佐藤美佳(筑波大学)、
竹内光悦(実践女子大学)、土田潤(京都女子大学)、
富田誠(横浜市立大学)、豊田裕貴(法政大学)、
中山厚穂(東京都立大学)、馬場康維(統計数理研究所)、
山本義郎(東海大学)、横山暁(青山学院大学)、
吉野諒三(同志社大学)、

今泉忠(監事、多摩大学)、
水田正弘(監事、統計数理研究所)

委任状提出：
狩野裕(大阪大学)、久保田貴文(多摩大学)、
酒折文武(中央大学)、林文(東洋英和女学院大学)、

陪席(2023-24年度幹事)：
阿部寛康(和歌山県立医科大学)

◆定足数の確認
評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項
1. J-STAGE Data 利用申請について
大津編集委員会委員長より、J-STAGE Dataの概要およびその利用申請状況について報告がなされた。

2. 和文誌の特集「調査データ収集法の新展開」について
大津編集委員会委員長より、和文誌第13巻第1号にて設ける特集「調査データ収集法の新展開」について、編集状況および発行予定時期について報告がなされた。

3. special issue of JGSC2023 in Archives of Data Science, Series A について
中山幹事長より、special issue of JGSC2023 in Archives of Data Science, Series A について、投稿状況を見て締め切りの延長を編集長にお願いする可能性がある旨、報告がなされた。

4. その他

宿久会長より、2024年度シンポジウムについて、2024年11月30日および12月1日に名古屋工業大学にて開催される旨、報告がなされた。また、林篤裕先生に実行委員長を依頼、承諾頂いた旨、報告がなされた。

小田会計幹事より、IFCSの年会費について、2024年度に支払いすることについて報告がなされた。

◆審議事項

1. 入退会について

阿部庶務幹事より、前回評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、1名の賛助会員および1名の正会員の入会、4名の正会員および5名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。併せて、2名の種別変更者があった旨、報告された。

2. 名誉会員の 신설について

中山幹事長より、名誉会員の 신설について、該当会員種目の概要案および 신설に向けての 手続きの流れについて、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、名誉会員の選考頻度、選挙権および被選挙権の有無、他の会員種別も含めた議論の必要性などの意見があり、それらも踏まえて、学会賞選考委員会で原案を作成することが承認された。

3. 40周年記念シンポジウムについて

中山幹事長より、40周年記念シンポジウムの開催および準備委員会の設置について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

4. 大会・シンポジウムの補助費について

中山幹事長および小田会計幹事より、2024年度より大会およびシンポジウムの補助費を増額する案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

5. その他

その他の審議事項なし。

・日本分類学会 2023-24年度 第6回評議員会 議事録

開催日時：2024年6月12日(水)、18:00-20:00

会場：zoomによるオンラインでの開催

出席者(敬称略、会長、監事以外は五十音順)：

宿久洋(会長、同志社大学)、石岡文生(岡山大学)、大津起夫(大学入試センター)、岡太彬訓(立教大学)、小田牧子(防衛医科大学校)、久保田貴文(多摩大学)、栗原考次(京都女子大学)、佐藤美佳(筑波大学)、土田潤(京都女子大学)、中山厚穂(東京都立大学)、林篤裕(名古屋工業大学)、林文(東洋英和女学院大学)、山本義郎(東海大学)、横山暁(青山学院大学)、

今泉忠(監事、多摩大学)、

水田正弘(監事、統計数理研究所)

委任状提出：

足立浩平(京都女子大学)、狩野裕(大阪大学)、竹内光悦(実践女子大学)、馬場康維(統計数理研究所)、吉野諒三(同志社大学)、

陪席(2023-24年度幹事)：

阿部寛康(和歌山県立医科大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 第43回大会について

宿久会長より、日本分類学会第43回大会について、山本義郎実行委員長のもと、2024年6月15日および16日に秋田市民交流プラザALVEにて開催される旨、報告がなされた。

2. 2024年度シンポジウムについて

宿久会長より、2024年度シンポジウムについて、林篤裕実行委員長のもと、2024年11月30日および12月1日に名古屋工業大学にて開催される旨、報告がなされた。

3. 2024年度データ分析セミナーについて

宿久会長より、2024年度は日本分類学会単独開催としてのデータ分析セミナーを開催予定である旨、報告がなされた。また、2025年度以降のデータ分析セミナーについては体制や開催時期をある程度固定化していく方針とする旨、確認がなされた。

4. 2024年度統計関連学会連合大会について
宿久会長より、2024年度統計関連学会連合大会について、2024年9月1日から5日にかけて、東京理科大学神楽坂キャンパスにて開催される旨、報告がなされた。

5. IFCS2024について
中山幹事長より、IFCS2024について、2024年7月15日から19日にかけてRodrigo Facio Campus of the University of Costa Rica (UCR), San Jose, Costa Ricaにて開催される旨、報告がなされた。

6. ECDA2024について
宿久会長より、ECDA2024について、2024年9月9日から11日にかけて、Faculty of Management, University of Gdansk, Sopot, Polandにて開催される旨、報告がなされた。

7. COMPSTAT2024について
宿久会長より、COMPSTAT2024について、2024年8月27日から30日にかけて、University of Giessen, Giessen, Germanyにて開催される旨、報告がなされた。

8. 和文誌について
大津編集委員会委員長より、和文誌第13巻第1号にて設ける特集「調査データ収集法の新展開」における、編集状況について報告がなされた。

和文誌第14巻については特集を設定しない旨、説明がなされた。

J-STAGE DATAの利用申請を行い、本和文誌「データ分析の理論と応用」での利用が認められた旨、報告がなされた。また、J-STAGE DATAに関わる投稿規定について検討中である旨、報告がなされた。

9. 広報活動について
土田広報幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

10. 第5,6,7回日独分類シンポジウムおよびPost-Proceedings出版について
今泉氏（同編集担当）より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings について、Springerからの論文中の著作権確認依頼があったこと、出版される書籍名に変更があったこと、2024年11月に出版予定であることについて、報告がなされた。

書籍名については、過去のもの大きく変わらないようにした方がよいという意見が出された。

11. その他
その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について
阿部庶務幹事より、前回評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、2名の正会員および5名の学生会員の入会、3名の正会員および1名の学生会員の退会について、原案の通り承認された。併せて、9名の種別変更者があった旨、報告された。

2. 2023年度事業報告について
阿部庶務幹事より、2023年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。
審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

3. 2023年度会計報告について
小田会計幹事より、2023年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。
審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

4. 2023年度監査報告について
今泉監事、水田監事より、5月29日に監査を行い、決算報告書・事業報告書・会議議事録等を精査した結果、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われていることが認められた旨、報告がなされた。

5. 2024年度事業計画案について
阿部庶務幹事より、2024年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。
審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

6. 2024年度予算案について
小田会計幹事より、2024年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。
審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

7. 2025年度の大会（第44回大会）について
宿久会長より、2025年度の大会は、中山厚徳実行委員

長（東京都立大学）の下、北海道函館市で開催予定である旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認された。

8. 学会賞について

今泉学会賞選考委員会委員長より、2024年度学会賞について下記の通り選考された旨、説明がなされた。

[貢献賞] 該当なし

[論文賞] 林邦好 会員（聖路加国際大学専門職大学院公衆衛生学研究科 講師（賞選考対象論文での所属）（現京都女子大学 准教授））

[奨励賞]

嶋田直也 会員（大阪大学大学院人間科学研究科 修士2年（賞選考対象の発表時））

鈴木徳太 会員（東京医科大学大学院 修士1年）

審議の結果、原案の通り承認された。

9. フェロー候補者について

今泉学会賞選考委員会委員長より、2024年度フェロー称号について、

足立浩平 会員（京都女子大学 データサイエンス学部 教授）

が選出された旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

10. 統計関連学会連合の法人化について

宿久会長より、統計関連学会連合の法人化について、法人化を検討するに至った経緯、法人化によるメリットとデメリットなどについて、報告がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

11. 名誉会員の新設について

宿久会長より、学会賞選考委員会にて名誉会員の新設について原案が作成され、2024年6月6日開催の幹事会における議論を経て、本評議員会に上程することとなった旨、説明がなされた。

次いで、今泉学会賞選考委員会委員長より、名誉会員の新設について、「名誉会員」という会員種別の新設ではなく「名誉フェロー」という称号での枠組を設けることなど、原案の内容について説明がなされた。

フェローとの違い、割引制度、会員として認められるか、などの意見が出された。

審議の結果、「名誉フェロー」の設置や方針について、あらためて事務局で再検討することとなった。

12. 2024年度総会の次第について

阿部庶務幹事より、日本分類学会 2024年度総会の議事について説明がなされた。「統計関連学会連合の法人化について」については審議事項とすることが確認された。

審議の結果、承認された。

13. その他

・出席評議員より、学会の運営担当者（幹事、委員など執行側）と監事の兼務について、利益相反の問題がある旨の指摘があった。それに対し会長から、指摘の通りであり、次期の学会運営体制の検討に際しては、本指摘に配慮する必要があることを引き継ぐ旨の回答があった。

・日本分類学会 2023-24年度 第7回評議員会（ネット） 議事録

日時：2024年10月15日（火）～ 10月28日（月）
（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条および役員選出内規第9条に基づき承認された。

1. 退会について

1名の学生会員、1名の正会員の退会について、原案の通り承認された。

2. 選挙管理委員の選出について

次の2名の選挙管理委員の就任について、原案の通り承認された。

- ・清水信夫氏（統計数理研究所）
- ・今田一希氏（実践女子大学）

（評議員20名のうち回答者数18名。回答者数18名のうち、賛成者数18名）

・日本分類学会 2023-24年度 第8回評議員会（ネット） 議事録

日時：2024年11月23日（土）～ 11月28日（木）
（メールによる審議）

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第6条に基づき審議された。

1. 入会について

7名の学生会員の入会について、原案の通り承認された。

(評議員20名のうち回答者数19名。回答者数19名のうち、賛成者数19名)

・日本分類学会 2023-24年度 第9回評議員会 議事録

開催日時：2024年12月27日(金)、15:00-15:45

会場：zoomによるオンラインでの開催

出席者(敬称略、会長、監事以外は五十音順)：

宿久洋(会長、同志社大学)、
足立浩平(京都女子大学)、石岡文生(岡山大学)、
大津起夫(大学入試センター)、岡太彬訓(立教大学)、
栗原考次(京都女子大学)、酒折文武(中央大学)、
佐藤美佳(筑波大学)、土田潤(京都女子大学)、
冨田誠(横浜市立大学)、豊田裕貴(法政大学)、
中山厚穂(東京都立大学)、林文(東洋英和女学院大学)、
山本義郎(東海大学)、横山暁(青山学院大学)

委任状提出：

小田牧子(防衛医科大学校)、狩野裕(大阪大学)、
久保田貴文(多摩大学)、竹内光悦(実践女子大学)、
馬場康維(統計数理研究所)、林篤裕(名古屋工業大学)

陪席(2023-24年度幹事)：

阿部寛康(和歌山県立医科大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

特になし。

◆審議事項

1. 会長候補の選出について

次期会長候補として、山本義郎氏が推薦された。

山本義郎氏に一旦退席いただき、次期会長について議論がなされ、山本義郎氏を会長候補とすることが承認された。

加えて、次期監事および評議員の候補者について確認がなされた。

2. 入退会について

阿部庶務幹事より、前回評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、1名の正会員の退会について、原案の通り承認された。

単位:円

科目	予算額	決算	増減	備考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	14,000	4,000	2,000円×7人(正会員6, 賛助会員1)
2 会費収入	837,000	937,000	100,000	納入率70%
正会員	575,000	575,000	0	5,000円×115人(納入率:68%)
シニア会員	12,000	15,000	3,000	3,000円×5人(納入率:60%)
学生会員	50,000	60,000	10,000	2,000円×30人(納入率:77%)
賛助会員	150,000	200,000	50,000	50,000円×4口(納入率:100%)
前年度以前分	50,000	87,000	37,000	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	340,000	418,720	78,720	
論文集売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	210,000	160,000	△ 50,000	50,000×2社+30,000×2社(Vol.12)
別刷代金	30,000	18,150	△ 11,850	別刷り(Vol.12)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	240,570	140,570	TeX化料金(Vol.12), 頁超過(Vol.12), カラー化(Vol.12)立替分
4 雑収入	460,000	265,331	△ 194,669	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	460,000	21,000	△ 439,000	データ分析セミナーのみを1回開催
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	234,330	234,330	第42回大会事務局, 2023年度シンポジウム事務局寄附
利子収入	0	1	1	1 銀行口座利子
その他	0	10,000	10,000	振込間違いの戻金(返金済み)
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS年会費支払いのため繰入
A 当期収入合計	1,672,000	1,660,051	△ 11,949	
B 前期繰越収支差額	3,920,553	3,920,553	0	
C 収入合計(A+B)	5,592,553	5,580,604	△ 11,949	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	632,620	37,380	
和文誌	500,000	357,400	142,600	Vol.12, 送料含む
別刷代金	30,000	18,150	11,850	
論文誌関係雑支出	100,000	135,850	△ 35,850	TeX化料金, カラー化料金
J-Stage登録作業費	40,000	16,500	23,500	5000円(税別)×3件
その他	0	104,720	△ 104,720	頁超過分
2 事業費	435,000	178,082	256,918	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	50,000	50,000	2023年度シンポジウム
セミナー運営補助費	250,000	60,165	189,835	データ分析セミナーの講師謝金
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞・フェロー経費	40,000	47,587	△ 7,587	学会賞表彰状経費, フェロー認定証経費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	0	0	0	
新入会員特典	40,000	20,330	19,670	7名利用
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	16,000	328	15,672	
幹事会・評議員会・総会等運営費	15,000	0	15,000	
その他	1,000	328	672	監査の際の敷料代
4 事務費	334,280	290,664	43,616	
業務委託費	150,165	150,165	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	50,000	2,415	47,585	
ウェブ運営管理費	3,500	3,289	211	ドメイン維持費
会報印刷費	110,665	121,330	△ 10,665	会報No.41(2022年度分), No.42
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	4,950	13,465	△ 8,515	振込間違いの方への返金, トークン費用
5 通信・郵送費	95,040	84,208	10,832	
会報等送料	50,040	54,580	△ 4,540	会報No.41(2022年度分), No.42
会費請求等連絡通信費	30,000	22,344	7,656	会費請求に関する書類等の送付
その他	15,000	7,284	7,716	学会賞・フェローなどの書類郵送費等
6 負担金	70,165	20,165	50,000	
IFCS	50,000	0	50,000	支払いは2024年度に繰り越し
統計関連学会連合	20,165	20,165	0	2023年分(振込手数料を含む)
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	25,000	25,000	0	
IFCS負担金のための積立	0	0	0	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,671,485	1,256,067	415,418	
E 当期収支差額(A-D)	515	403,984	△ 403,469	
F 次期繰越収支差額(C-D)	3,921,068	4,324,537	△ 403,469	
G 支出合計(D+F)	5,592,553	5,580,604	11,949	

日本分類学会会則第10条に基づき、2023年4月1日より2024年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2024年 5月 29日

監事

今泉 忠

印

監事

水田 正弘

印

(実際の決算報告書には自筆の署名と押印あり)

科 目	予算額	前年度予算	増 減 (24-23)	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	959,000	837,000	122,000	
正会員	625,000	575,000	50,000	5,000 円×(178人×0.70+125人)として算出
シニア会員	12,000	12,000	0	3,000 円×(5人×0.70+4人)として算出
学生会員	42,000	50,000	△ 8,000	2,000 円×(29人×0.70+21人)として算出
賛助会員	200,000	150,000	50,000	50,000 円×4口として算出
前年度以前分	80,000	50,000	30,000	2023年度実績は87,000円
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	160,000	340,000	△ 180,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	160,000	210,000	△ 50,000	論文誌 Vol.13 の広告収入、実績より算出。
別刷代金	0	30,000	△ 30,000	別刷り立替分
論文誌関係雑収入	0	100,000	△ 100,000	TeX化料金、カラー印刷代金立替分
4 雑収入	100,000	460,000	△ 360,000	
大会・シンポジウム参加費	-	0	-	
セミナー参加費	100,000	460,000	△ 360,000	法政IM共催セミナー
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙経費のため
A 当期収入合計	1,254,000	1,672,000	△ 418,000	
B 前期繰越収支差額	4,324,537	3,920,553	403,984	
C 収入合計(A+B)	5,578,537	5,592,553	△ 14,016	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	572,000	670,000	△ 98,000	
和文誌	500,000	500,000	0	Vol.13.送料を含む。
別刷代金	0	30,000	△ 30,000	
論文誌関係雑支出	50,000	100,000	△ 50,000	Vol.13. 特集等の原稿依頼の会員の著書負担分を学会負担に変更
J-Stage登録作業費	22,000	40,000	△ 18,000	Vol.13. 1論文あたり5000円(税抜)
その他	0	0	0	
2 事業費	425,000	435,000	△ 10,000	
大会・シンポジウム運営補助費	300,000	100,000	200,000	2024年度大会とシンポジウムの補助
セミナー運営補助費	0	250,000	△ 250,000	講師謝礼、交通費・資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	40,000	40,000	0	表彰状・フェロー認定経費、大会参加費、優秀学生奨励費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	40,000	0	40,000	前年度実績より算出
新入会員特典	40,000	40,000	0	学生会員8人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	6,000	16,000	△ 10,000	
幹事会・評議員会・総会等運営費	5,000	15,000	△ 10,000	前年度実績より算出
その他	1,000	1,000	0	前年予算踏襲
4 事務費	230,315	334,280	△ 103,965	
業務委託費	150,165	150,165	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	10,000	50,000	△ 40,000	実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	ドメイン維持費。実績より算出
会報印刷費	50,000	110,665	△ 60,665	会報 No.43
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	1,650	4,950	△ 3,300	ゆうちょ口座のトークン費用
5 通信・郵送費	70,000	95,040	△ 25,040	
会報等送料	25,000	50,040	△ 25,040	会報 No.43
会費請求等連絡通信費	30,000	30,000	0	0 会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	15,000	0	0 大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	90,977	70,165	20,812	
IFCS	70,812	50,000	20,812	2023年度中に支払い分(US\$)の持越し
統計関連学会連合	20,165	20,165	0	2024年度分、振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	0 原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	0 名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	0	25,000	△ 25,000	
IFCS負担金のための積立	25,000	0	25,000	IFCSの年会費のための積立
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	0 日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,445,292	1,671,485	△ 226,193	
E 当期収支差額(A-D)	△ 191,292	515	△ 191,807	
F 次期繰越収支差額(C-D)	4,133,245	3,920,068	212,177	
G 支出合計(D+F)	5,578,537	5,592,553	△ 14,016	

事務局から

●学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification (ADAC)

ドイツ分類学会 (German Classification Society) およびイタリア分類学会 (Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007 年より Springer 社から刊行しております (年間 3 冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

●会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九 (ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガツカイジムキョク

●ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。

承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報だけのコミュニケーションだけでなく大会やシンポジウムにて、皆様と現地でお会いできることを楽しみにしております。またここに、つらい訃報もお伝えしなければなりません。2024 年夏に立ち上げ当初から学会運営にご尽力いただいた吉野諒三先生がご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表させていただきます。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュース等でも情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事：土田潤 (京都女子大学)、船山貴光 (東北大学)

広報委員：谷岡健資 (同志社大学)、横山暁 (青山学院大学)、山田実俊 (東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>